

衆議院財務金融委員会ニュース

H29.5.10 第193回国会第18号

5月10日(水)、第18回の委員会が開かれました。

1 金融に関する件(通貨及び金融の調節に関する報告書)

- ・通貨及び金融の調節に関する報告書について、黒田日本銀行総裁から説明を聴取しました。
- ・越智内閣府副大臣、大塚財務副大臣、藤井国土交通大臣政務官及び政府参考人並びに参考人に対し質疑を行いました。

(参考人) 日本銀行総裁	黒田東彦君
日本銀行理事	雨宮正佳君
日本銀行理事	宮野谷篤君

(質疑者及び主な質疑内容)

福田達夫君(自民)

- ・政府と日銀の役割分担が上手くいっていると考えているが、現状について日銀総裁の認識を伺いたい。
- ・地域経済において金融機関の役割は重要であり、金融行政においても金融機関のガバナンスのみならず金融機関による地域経済への貢献という視点への転換が図られているとのことだが、現状について政府に伺いたい。
- ・マイナス金利により地域金融機関のビジネスモデルの転換が図られるべきであるが、その前に収益力が弱まるリスクについて日銀総裁に伺いたい。

宗清皇一君(自民)

- ・輸出の増加が我が国経済の拡大のポイントとなっているが、輸出の動向が経済全体にどのように波及しているのか。また、輸出の増加によって中小企業を含む関連企業の設備投資や雇用の状況がどのようになっているのか。
- ・現在の低金利政策が雇用者所得の改善にどのような効果があるのか。また、貯蓄や年金で生活する高齢者の消費喚起に何が重要か日銀総裁の見解を伺いたい。
- ・日銀の国債買入れにより国債が発行しやすい環境にある。財政出動の必要性は理解できるが、経済が更に悪化した時に次の政策対応の余地がなくなるのではないかと。新たな国債の発行による教育無償化は将来世代の負担を現世代が決めることとなり民主主義の観点から考えても賛成できないが、政府の見解を伺いたい。

前原誠司君(民進)

- ・日銀による長期国債の保有残高の年間約80兆円増加ペースでの買入れは、いずれ限界が来ると思われるので、昨年9月に長短金利を目標とした「長短金利操作付き量的・質的

金融緩和」を導入したことは評価するが、その導入後においても、日銀の長期国債の保有残高は増加している状況である。日銀の長期国債の保有残高の拡大について、日銀総裁の所感を伺いたい。

- ・日銀の異次元金融緩和策からの出口局面では、保有長期国債に評価損が発生するという認識を日銀総裁は持っているか。
- ・財政健全化は日銀の長期国債の買入れに頼ってはならないと思うが、日銀総裁の見解を伺いたい。

鷲尾英一郎君(民進)

- ・日銀の「経済・物価情勢の展望(2017年4月)」(以下「展望レポート」という。)において、2%程度の物価上昇率は2018年度頃になる可能性が高く、その後2%程度で安定的に推移すると見込まれるとしているが、その根拠は何か。
- ・展望レポートの中で、「為替相場が輸入物価を通じて消費者物価にもたらす影響については、既往の為替相場の円安方向への動きが、2017年度を中心に、価格上昇圧力を高める方向に作用する」としているが、日銀総裁の見解を伺いたい。
- ・展望レポートの中で、経済見通しに対する経済・物価の上振れ、下振れの第1の要因として、海外経済の動向に関する不確実性があるとしており、経済の下押し要因となる可能性がある一方で、展開によっては上振れにつながる可能性もあるとしているが、上振れにつながるとはどのような展開なのか。

宮本岳志君(共産)

- ・展望レポートにおいて、政策委員の物価見通しの中央値が2018年でプラス1.7%、2019年でプラス1.9%である中、2%の「物価安定の目標」の達成時期を2018年度頃としている理由について伺いたい。

- ・日銀の直近3年の長期国債保有額及び同保有率について伺いたい。
- ・日銀の2017年度の考査の実施方針等において、アパートローン（個人の貸家業向け貸出し）の審査体制を点検することに至った背景について伺いたい。

丸 山 穂 高 君（維新）

- ・商工中金の不正融資事案に対する財務省の所見及び対応について伺いたい。
- ・4月の内閣府の月例経済報告と日銀の展望レポートにおける景気判断の表現の差異について、財務省及び日銀の所見を伺いたい。
- ・金融緩和の出口戦略における不安やリスクについて説明すべきとの指摘に対する日銀総裁の所見を伺いたい。